

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 長尾 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

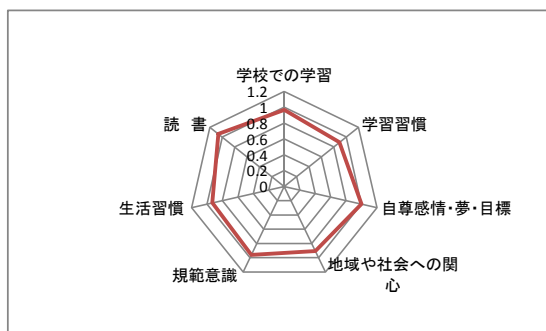
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を上回っていた。言語知識理解は基礎ができていた。 ・読む力を問う問題にやや課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く・正しく読む問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む問題や俳句の情景を捉える問題について正答率がやや低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を上回っていた。 ・書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	話の構成を工夫して話す。場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す。問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題については、無回答率が高かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・乗法で表すことができる2つの数量の関係を理解する。・小数の乗法の計算をする。・二次元表に分類整理する。問題がよくできていた。	
	努力が必要な問題	数量の関係を数直線に表す問題の平均正答率が、全国平均をやや下回っていた。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を上回っていた。 ・理由を記述する問題に課題があり、習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することができる問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する問題に無回答率が高かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ等の接触時間は、4時間以上の長時間の利用の割合が依然と高い。</li> <li>・「携帯・スマホ10時OFF」の取組により、1時間以上接触している児童の割合は減少した。</li> <li>・家庭学習では、しっかり取り組んでいるものの、自分で計画を立てて、勉強している割合がやや低い。</li> </ul>
---

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・国語の学習が好きになれるように、話し合い活動や書く活動の充実を図り、授業の改善を図っていく。
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・「家庭学習チャレンジハンドブック」の更なる活用をめざし、自分で計画を立てて勉強する習慣を身に付ける。
---